



基本項目記入数 25

チャレンジ項目記入数 13

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																			
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17			
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・有害物質を把握し、適切な管理及び処理に取り組んでいる。 ・産業廃棄物業者と綿密に連携し、廃棄方法、管理方法のアドバイスをいただいている。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1					
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・エネルギー使用量:13,146,523(GJ)(2023年度全社) ・社内の全電灯をLED化している。 ・屋上に太陽光パネルを設置し、社内の電力の大部分を賄っている。							7.3						13							
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		GHG排出量:823,082(tCO2e)(2023年度全社) ・配送車両は随時EV車に切り替えている。(5年後までには配送車両の半数をEV車に切り替える予定。) ・太陽光パネルの発電状況と、削減したCO2量を見える化し、社内啓発を推進している。		2.4					7.2 7.3 7.a					12.4	13	14	15					
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・生態系への影響を避けるため、ペットボトルの飲料を減らし、マイボトルの使用を推進している。 ・事業所周りの街路樹や花壇付近のごみ収集を定期的実施している。						6.6									14	15				
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・紙の使用を控えるため、使用枚数をカウントし、削減率での表彰を行っている。 ・ごみの分別回収を行い、紙、プラスチック、ペットボトル、ペットボトルキャップ、ビン・缶に分け、リサイクル業者に依頼している。									9.4				12.2 12.4 12.5		14.1	15				
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・水道の蛇口付近に節水シールを貼り、呼びかけている。 ・排水口のネットを日々交換し、食品カスや遺物の排水への流出を防いでいる。		2.4					6.1 6.3 6.4 6.6 6.b					11.5			14.1 14.2 14.3	15			17	
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・全制服に植物由来の原料を使用している(サトウキビ)。										9.4			12.4 12.5	13	14	15				
	29	【食品ロスの削減】 食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		・フードドライブ活動に参加している。		1	2				6.4							12.3	14	15			17	
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●														11.6 11.7		13.1 13.3		15			17	
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善または再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●		・太陽光パネルを設置し、晴天時の日中は全ての消費電力を賄っている。								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3						
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・「伐って、使って、植えて、育てる」の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●									6			9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●									6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	34	【海洋ごみ】 ・環境中で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●															12.2 12.5		14					
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●		・配送車両は随時EV車に切り替えている。(5年後までには配送車両の半数をEV車に切り替える予定。)										9.4		11.2		13.1 13.3						
36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●		・全社で2050年温室効果ガス自社排出量ゼロに向けて、2030年に48%削減など、具体的な計画を立てて進めている。(燃料電池トラック、モーダルシフト、カーボンニュートラル宅急便の実施等)								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13					17.2		

